

It would be difficult to say that the words
"I will never forget" will remain unchanged into the distant future.



Nige jyouzu no wakagimi Unofficial fanbook
Presented by Sui | landscape

成人向

吹雪 × 北条時行

So when I hear those words, I wish my life could end today.



忘れじの 行く末までは 難ければ
今日を限りの 命ともがな

物分りの良い
臣下のままで
いられたなら
よかったのに

君ほどの
男が……

私を選んで
くれるのか……？







貴方が
分け隔てなく

懐に入れた
全ての者を
心から愛せる
御方だと

初めて出会った
あの夜から
存じております



……それでも
吹雪は……

ハッ

我が君……
気にせずとも
良いのです



自分はきっと

いつか貴方が
当主としての責務を
ご立派に果たされた時
臣下として誇りに
思うでしょう

……嗚呼、

皮肉なものだ



そして

血を繋ぐ事は
天下人たる者の
宿命です



貴方が「吹雪」を
必要としてくれれば
くれるほど



ありがとう
吹雪……

「自分」が貴方を
独占する事は
叶わないのだ



これから
私と共に
歩んで欲しい

ならばせめて
自分という
哀れな男の痕跡を

その御身へ
呪いのように
刻んでしまおうか

貴方がこちらを
振り返るよりも
ずっと前から

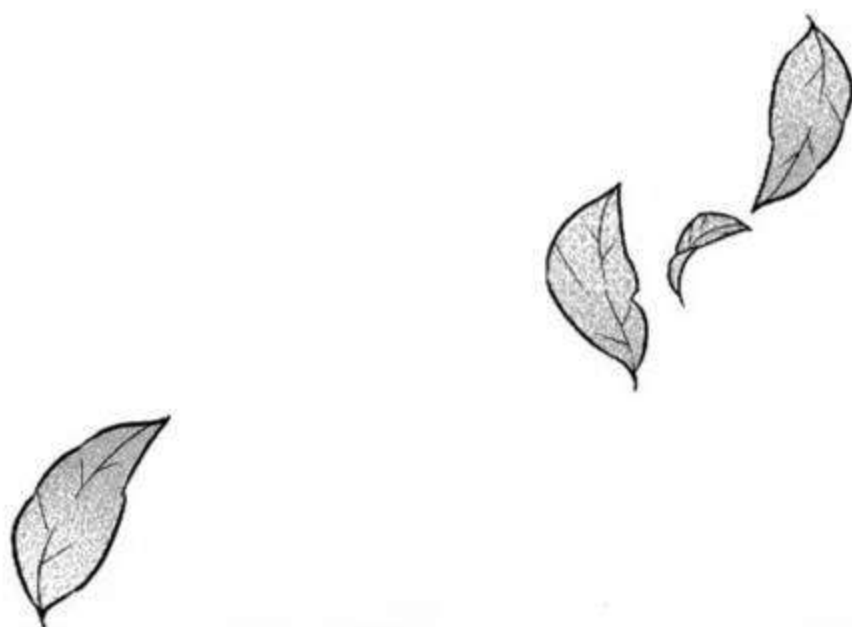


勿論です

我が君



この身と心は
とうに
貴方へ堕ちていた



——もし
自分と我が君の
恋仲という関係性が

主従であり
師弟である事と同様に
堂々としたもので
あったなら

まるで童同士の
拙いままごとの
ようだと
笑われたのだろうか

それとも
世間は

然るべき時に
手放されるだろう

側室にすら
なれない男を
哀れむのだろうか

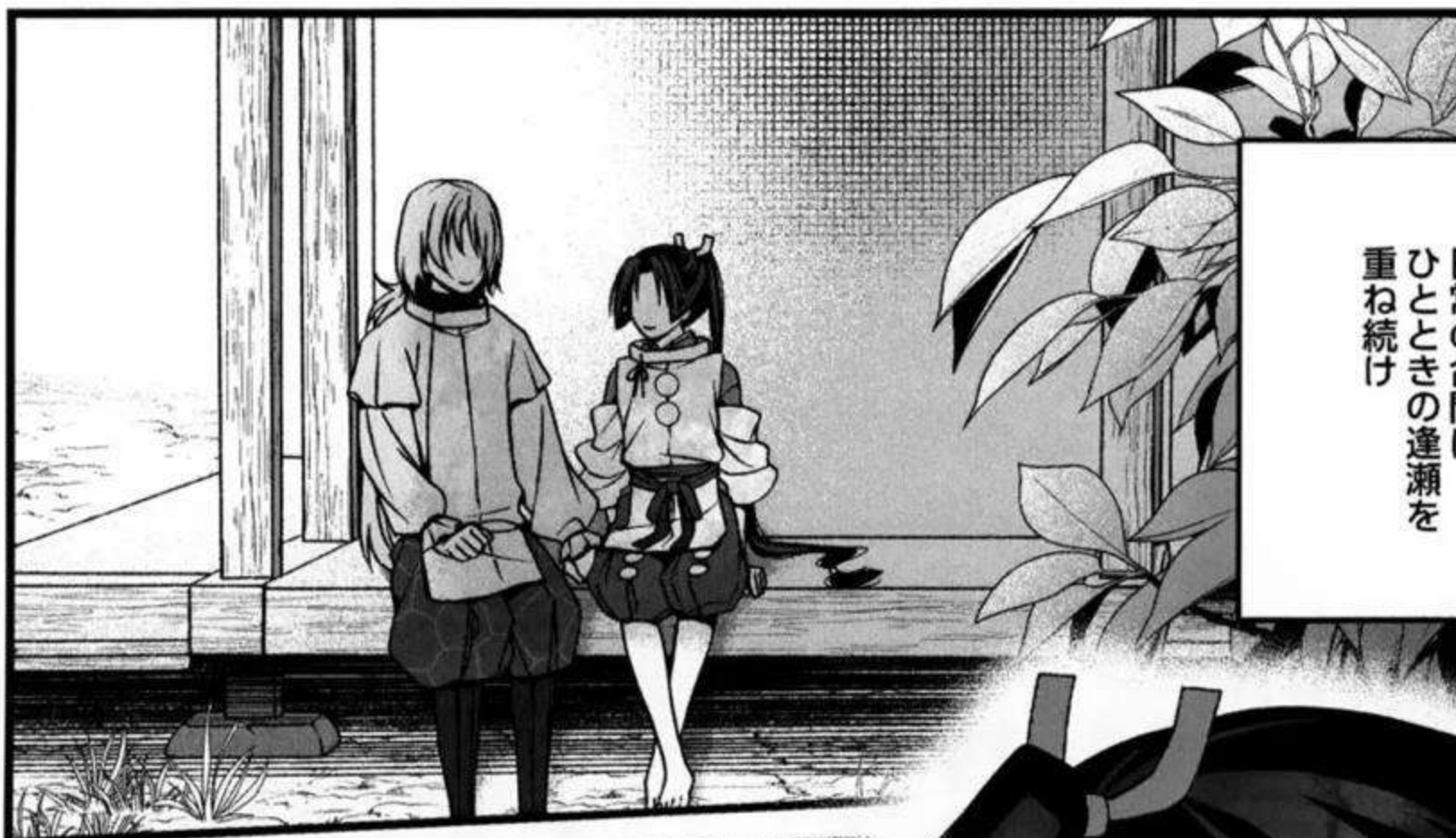
誰にどう
思われようと
詮無きことだ

四季を一巡する頃には
我が君に捧げる
この忠誠心と情愛は
身の内から
溢れ出そうな程に
根深いものと成り果て

そして――

郎党の目を盗み

日常の合間に
ひとときの逢瀬を
重ね続け



やがて貴方の
あどけない姿に
肉欲を覚えるまで



そう時間は
かからなかった

とんだ臣下が
いたものだな



主君を性的に
籠絡させるだなんて

ふ、吹雪……

今日は……
……そのっ

んっ……
慎重すぎない
だろうか……？

ドキ
ドキ

ん

あ

……流石に
恥ずかしく、て……

ドキ
ドキ

ドキ
ドキ





……此度の
戦では

我が君がどれほど
皆に敬愛されているか

この身を持って
思い知りました



……ですが
誰にも
渡しません



貴方の心だけは

未来永劫
自分のものです



ああ……



優しい吹雪が
誰にも
言えなかった

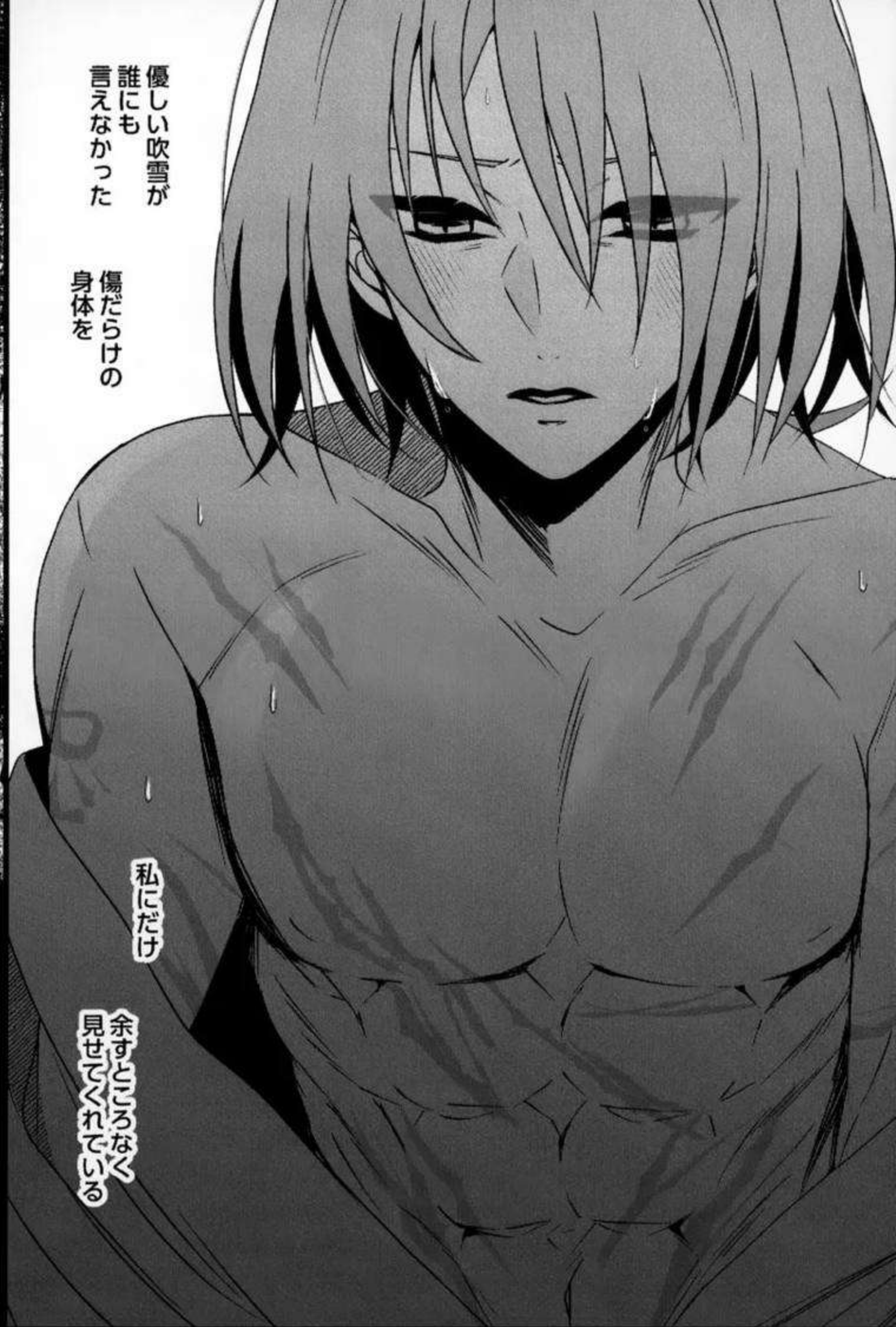
傷だらけの
身体を

私にだけ

余すところなく
見せてくれている

辛かっただろう
過去の痕跡を

己の罪も





我が君……っ

おっ♡

おっ♡

あんっ♡

おっ♡……♡

おっ♡

おっ♡

おっ♡

おっ♡……♡
おっ♡から……♡

バンッ

バンッ

バンッ

ドッ

おっ♡

ドッ

ドッ

……♡

……それに

くいつ

私が中に出して
欲しいと
強請ったんだ

ふふふ

吹雪が我慢出来なく
なるほど具合が
良かったのなら
……むしろ嬉しい

父上の鎌倉で
過ごしていた頃は
知らなかったよ

私の身の内に
こんなにも強く
誰かを欲する感情が
あったなんて

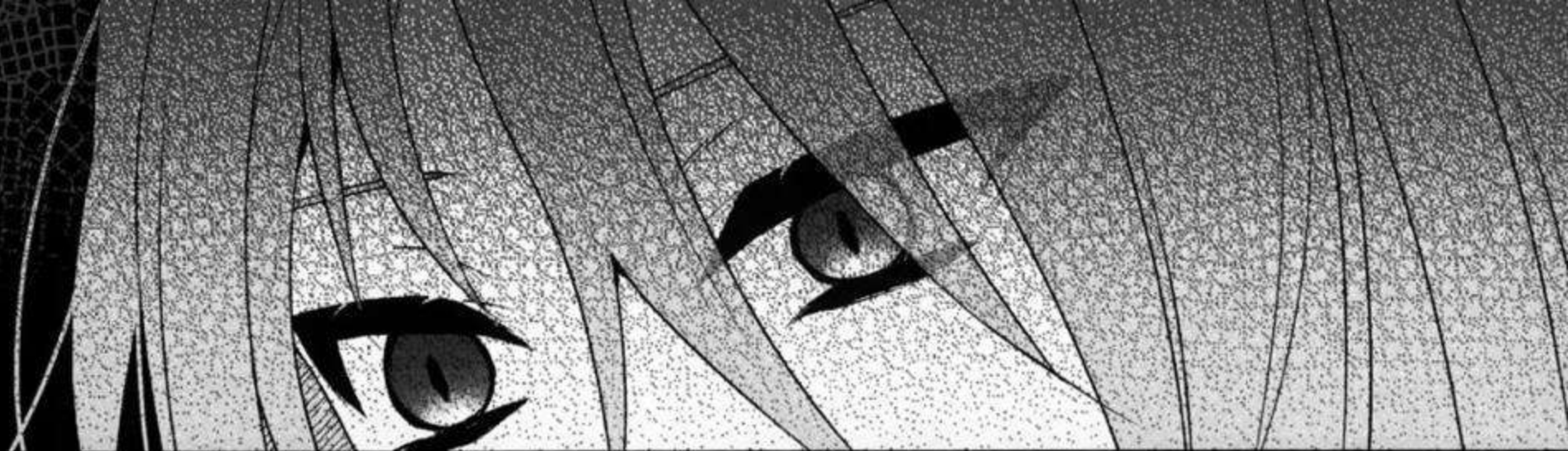
ありがとう
吹雪

本当の私を
教えてくれて

君が見つけて
くれたんだ

私はきっと

君と過ごした
この日々を生涯
忘れないだろう



……嗚呼、



貴方が
その言葉通り



自分だけを
求め続けて
くれたとしても



それはきつと
「吹雪」の理想とする
天下人の姿ではない

けれど



お慕いしています

我が君



吹雪……？

身勝手にも自分は
貴方が主としての
理想に近付けば
近づくほど

いつか正室や側室に
囲まれた貴方の中から

「吹雪」という男の存在が
薄れてしまうのが
恐ろしくて

……自分も
気付きません
でした

身の内にこのような
激情がある事を

愛しているのです
……時行殿

これは貴方の事を
求めてしまった
罰だ――



自分はきつと

貴方が当主としての責務を
ご立派に果たされる事を
誇りに思うでしょう

嘘をつくな



北条の臣下や
師ではなく

ただひとりの
男としての
自分が

貴方に愛されたいと
願ってしまった

決して
自分のものには
ならない貴方が

憎くて、憎くて、

だからこそ



どうか
お許し下さい

心の底から
愛おしかった

2025.1.26

Nigejyouzu no wakagimi unofficial fanbook

Fubuki x Tokiyuki Hojo

writer // sui * landscape

mail // suioyasu11@gmail.com

X // @landscape_ngw

pixiv // 53162082

print // OTACLUB

作中引用 // 儀同三司母（54番）『新古今集』恋・1149

この本は個人による非公式のファンブックです
すべての著作権者様とは一切関係ありません

この度は本をお手に取って頂き誠にありがとうございます。

きっと1335年夏の鎌倉で吹雪は自分の中の矛盾に心がグチャグチャになっていそうだなと思い、個人的に百人一首で一番好きな歌「忘れじの～」にかけて描いたお話でした。
若って男前でどこまでも「当主」の価値観とメンタルなんですよね。吹雪は生きてきた環境のせいで心が揺らぎやすく人一倍承認欲求が強く特別を追い求めている子で。生まれた瞬間から何もかも他人にルールを決められて生きてきた人生の中で、若が初めて自発的に欲しいと願った相手が吹雪であるという事実がそれはもう唯一無二といっても良いほど凄い事なのに、吹雪が求めているのはもっとわかりやすく目に見えて永続的な「特別」なので、盛大なすれ違いを起こしてしまった。例えばいつか若が正室を迎えたとしても吹雪はずっと特別で誰もその代わりにはならないし君が好きだと言葉にして伝えているんですが、吹雪が本当に欲しいのは正室のポジション含んだ「吹雪だけの時行様」なので、永遠に満たされない。重すぎる。そこが最高にたまらないです。

余談ですが精通前de挿入ありな本を出すのは人生初だったので、南北朝時代のガバガバ倫理観！南北朝時代のガバガバ倫理観！と繰り返し唱えて挑みました。己の中の大事なネジが一個どこかに飛んでいった気がします。ふぶ若いとをかし。

！禁止！

18歳以下の方の閲覧、無断転載、インターネット上に無断アップロード、ネットオークション出品、フリマアプリ出品

**これらの行為によって生じたトラブルは
全て出品者、投稿者が負うものとします**

本書の一部、あるいは全てを原作者の許可無く無断でインターネット上に転載、アップロード、公開することは法律で禁止されています。悪質な無断転載と転売は「本文1ページにつき10,000円」加えて「1ページビューにつき500円」を請求させて頂きます。また、サーバー会社、アフィリエイトスポンサーサイト、ドメイン取得サイトに通報致します。第三者が違法にアップロードしたものを転用した場合でも同様の対応を行います。

「忘れない」という言葉が、遠い将来まで
変わらないというのは難しいでしょう。
だから、その言葉を聞いた今日を限りに
この命が尽きてしまえばいいのに。

